

普及だより

きみつ

〒292-0833 木更津市貝渕3-13-34 TEL. 0438(23)0299
https://www.pref.chiba.lg.jp/ap-kimitsu/ FAX. 0438(23)6698

発行
千葉県君津農業事務所
君津地域農林業振興普及協議会

編集
千葉県君津農業事務所
改良普及課



牛舎敷地内の見学



経営概要について説明を受ける様子



育成牛舎の見学



搾乳牛舎の見学



酪農のスキルアップ研修

自給飼料の活用によりコスト削減に取り組む
酪農経営の視察研修会を開催しました

最近の酪農情勢は、ウクライナ情勢や円安などを背景とした輸入飼料価格の高騰により、厳しい経営状況が続いています。このような中で経営を維持するには、経営コストの半分以上を占める飼料費の削減に取り組むことが必須の課題となっており、県内では酪農家が自ら青刈リトウモロコシを始めとした自給飼料を生産することで、飼料費を削減する取組が行われています。

そこで、君津農業事務所では、酪農経営の安定化を図ることを目的として、11月5日に青刈リトウモロコシの活用により飼料費削減に取り組む、東庄町の酪農家への視察研修会を開催しました。研修会へは管内若手酪農家5名のほか、関係機関7名が参加しました。

研修では、経営コスト削減のために重視している点や、生乳生産以外の収益を確保するために行っている、和牛2卵移植の取組について説明を受けました。参加者からは飼養管理や雇用管理に関する質問が挙がり、活発な情報交換の場となりました。

経営改善のために様々な事例を学ぶことは、若い経営者にとって大切なことです。農業事務所では今後も酪農家の経営発展に向けた取組を支援していきます。

(櫻沢)



〜農福連携でWIN-WINとなる作業を模索する〜

君津管内は全国有数のサイヤインゲンの産地です。JAきみつ小櫃園芸部会洋菜部では、雇用労働力の高齢化による人手不足が深刻になっていいます。そこで労働補完の一つとして、管内の2つの福祉事業所と関係機関で協議を重ね、農福連携できる作業について検討しました。

福祉事業者の方は事前に、出荷箱の組み立て、袋詰め作業、収穫作業を見学し、福祉事業所で作業を練習して臨みました。

これら作業の中で最も取り組みやすい作業が袋詰め作業でした。小櫃洋菜部ではサイヤインゲンの選果調製作業の省力化としてJAで機械選果が行われています。近年、小売店側からの要望で下位等級を出荷時に100gの小袋包装する出荷に取り組んでおり、従来と比べて高単価で扱われています。しかし、機械選果作業が終わってから袋詰めを行うため、パートへの作業負担が課題になっていました。

袋詰め作業のお試しノウフク当日は、効率的に作業するため、秤や小道具、小袋を置く箱にテープで色分けし、莢の向きや袋の数が一目でわかるよう工夫をしました。作業を細分化し、計量↓袋に入れる↓テープで留める作業を3名で行い、事前の練習もあつてスムーズに作業ができました。

収穫作業は、サイヤインゲン特有の曲がりや長さの基準を判断することや、取り残しのないように収穫することが難しく、ハードルが高いことがわかりました。

今回のお試しノウフクで把握した改善点を整理し、福祉事業所、JAきみつ双方の意向を確認した上で、農福連携による労力支援につなげていきます。(古谷)



袋詰めの様子

君津農業経営体育成セミナー

先輩農業者への経営訪問&意見交換会を開催しました!

農業事務所では、新規就農した概ね45歳までの方々を対象に、農業経営体育成セミナーを開講しています。当セミナーでは、生産技術や経営に関する研修会、先進農家への視察研修会、セミナー生同士の相互訪問等を行っており、セミナー生はこれらの研修を通じて、実践的な農業の経営管理手法を学んでいます。

令和7年10月14日(火)には、地域農業をけん引する、農業士・指導農業士への経営訪問及び先輩農業者との意見交換会を行いました。

経営訪問では、富津市の農業士の鈴木真紀さんと、同じく富津市の指導農業士の森田泰彰さんの経営を訪問し、露地野菜・施設メロン周年栽培の取組、販売手法等についてお話をいただきました。

意見交換会では、農業士協会、指導農業士会及び君津4市4Hクラブ連合会から先輩農業者の方々に参加いただき、セミナー生が抱える課題や悩みに対し、多くのアドバイスをいただきました。参加したセミナー

生からは、「先輩農家も自分と似た悩みを経験していることを知り、心強く感じた」などの感想がありました。

農業事務所では、今後も新規就農者の就農定着に向けた企画や支援を実施していきます。(柴田)



経営訪問及び意見交換会の様子

トマト産地のウイルス病を克服するために…



3つの対策の徹底を!!

①「コナジラミ類について」

トマト・ミニトマトに甚大な被害を及ぼすウイルス病である「トマト黄化葉巻病」や「トマト黄化病」は、コナジラミ類によって媒介されます。体長が0.8mm程度と小さく、羽を持ち、繁殖力が旺盛なため防除が困難で、栽培初期に罹病すると収穫ができなくなるなど産地の深刻な問題になっています。

②「ウイルス病対策のポイントについて」

① **収穫が終了したら「断ち切る」**
罹病したトマトの株や雑草、保毒したコナジラミ類はウイルス病の発生源となります。収穫が終了したら、トマトの株を切断や抜根し、雑草も引き抜き、植物を完全に枯死させます（低温期の場合はキルパー等古株枯死に登録のある薬剤を使用しましょう）。その状態でハウスを10日以上密閉します。エサとなる植物が枯死することで、コナジラミ類も死滅します。

② ハウスの中に「入れない」

育苗ハウスを含むハウス内にコナ

ジラミ類を入れないために、ハウスの出入り口、サイド、谷など換気部に目合い0.4mm以下の防虫ネットを張りします。栽培前にネットの破れや隙間がないか確認しましょう。

③ 栽培開始後は「増やさない」

微小な害虫のため、どうしても入ってしまう場合があります。栽培初期から防除を徹底し、コナジラミ類が増えないように管理をしましょう。定植前や定植時の薬剤処理（かん注処理、粒剤施用）、定期的な薬剤散布、下葉かき、葉裏まで丁寧に薬剤を散布することを心がけ、薬剤の効果が途切れないようにすることが重要です。発病株は感染源になるので、速やかに株元から抜き取り、ハウス外に持ち出し、ビニール袋に入れて完全に枯らしてから処分しましょう。

これらの対策はトマト産地全体で取り組むことが重要です。対策の詳細は農業事務所までお問い合わせください。
(松尾)



トマト黄化葉巻病発病株



タバココナジラミ成虫(体長約0.8mm)

特定外来生物

「ナガエツルノゲイトウ」

「ナガエツルノゲイトウ」

【生態】

南米原産の水生植物で、繁殖力が強く、除去しても、ちぎれた茎や残った根から再生します。水辺で形成した群落が離岸して流下すると、排水機場が詰まるなどの問題を引き起こします。また、畦畔や水田内で繁殖すると、コンバイン収穫に支障をきたします。

【君津地域における状況】

令和5年頃から水田内での発生が確認されています。令和6・7年に実施した調査の結果、発生範囲は確実に広がり、個体数も増加している状況です。今後更に広がる可能性があります。極めて高く、早急な対策が必要です。

【防除】

一度、水田内へ侵入すると根絶は困難かつ、定着すると除去作業はとて大変です。まずは侵入防止を徹底し、侵入した場合は侵入初期や群落が小規模の段階で防除しましょう。

① 本田への侵入防止対策

水口に3mm程度の種子もみ袋などの網を設置し、茎や葉の流入を防

ぎましょう。また、農機に付着して拡散しますので、発生のない圃場から作業し、作業後はよく洗浄しましょう。

② 畦畔や本田で発生したら

刈払機で除草すると茎などが飛散し、発生場所が拡大します。そのため、畦畔や本田では除草剤による体系処理を行います。(石川)

		移植	中干し	出穂	収穫				
		3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
畦畔防除	いすれかを散布	●カソロン粒剤6.7 ※畦畔崩壊しやすい場合			●ザクサ液剤				●ラウンドアップマックスロード
			●ラウンドアップマックスロード			●ロイヤント乳剤 ・収穫前45日まで ・ナガエツルノゲイトウの草丈35cmまで			
水田内防除	区分	移植			中干し				
	体系防除A (散粒機及び大型噴霧器使用)	●バッチリLX1キロ粒剤 (田植同時~移植後7日)			●ロイヤント乳剤 (移植後約40日) ・落水又はこく漬く落水 ・ナガエツルノゲイトウの草丈35cmまで				
	体系防除B (散粒機使用)	●ピラクロン1キロ粒剤 (田植同時~移植直後)			●ウィードコア 1キロ粒剤 (移植後約15日) ・ナガエツルノゲイトウの草丈5cmまで				

防除例及びナガエツルノゲイトウの写真
防除例出典:環境農業推進課「難防除雑草「ナガエツルノゲイトウ」に注意!」

令和7年度
千葉県農業士・
指導農業士
認証者を紹介します

農業士は地域農業の担い手のリーダーとして、指導農業士は地域農業の振興や農業後継者の育成に関する役割が期待されます。

農業士

☆平野 恵氏(木更津市)

木更津市上望陀地区において養豚経営を行っています。飼育では与える飼料にこだわり、作業マニュアルに基づく衛生管理、効率改善に取り組んでいます。飲食店と肉屋を繋げ、チームとして消費システムの変革を行い、直売所経営、市内の学校給食への提供、学校での講演など食育活動にも御尽力されています。

☆山口 絵美氏(富津市)

富津市天羽地区において水稲、キャベツ、レタスの栽培を行っています。水稲栽培面積は30haを超え、重要な地域農業の担い手です。野菜栽培は苗作りから行い、土壌診断

に基づく肥培管理を徹底し、一から作った農産物を販売することにこだわって栽培しています。学校給食への食材提供も行っていきます。

指導農業士

☆朝生 博之氏(君津市)

君津市小糸地区において種子用と主食用水稲、小糸特産湿地性カラーを高品質で栽培しています。君津市認定農業者協議会の会長を10年務め、きみつ枝豆収穫祭や小学生の米づくり体験など、農業の魅力を発信し、地域の方や消費者との交流に積極的に取り組む他、地域内の新規就農者の支援にも活躍されています。



平野恵氏(左)、朝生博之氏(中央)、山口絵美氏(右)

暑さに負けない
農産物生産を
目指して



近年、農産物生産において、6～9月頃の異常な高温や乾燥が問題となっており、品目によっては著しい収量低下の原因になっています。

そこで君津農業事務所では、地域の主要な品目の生産者に対して、研修会の開催や調査研究を行うことで、それら被害の軽減に取り組んでいます。露地野菜においては、近年暑熱対策資材として注目を集めるバイオステイミュラント材に関する研修を行ったほか、育苗トレイや畝に展張するマルチの色が生育環境の温度に与える影響等について検証を行っています。

施設栽培においては、光や熱を遮断する塗布材をドローンで塗布し、その効果を検証しました。また、屋根やハウス内に散水することでハウス内気温を下げる設備の導入を試み、その効果検証等に取り組んでいます。



マルチの違いによる生育比較の調査ほ



ドローンで塗布材を塗布する様子

酪農においては、経営毎に牛舎環境調査を実施し、改善点について提案を行うことや、研修会で暑熱対策技術に関する情報提供を行うことにより、生産者を支援しています。農業事務所では、夏場の高温・乾燥に可能な限り対応できるように、取り組んでいる調査研究の結果を中心に、講習会等を通じて生産者の皆様へ情報提供等を行うことで、農畜産物の安定生産を支援します。(鈴木)

会員募集

君津4市4Hクラブ連合会

木更津市・君津市・富津市・袖ヶ浦市の青年農業者で構成された団体です。品目や経営形態は様々ですが、経営力の向上や同世代との交流を目的に活動しています。昨年度は収穫体験会や他県への視察研修を実施しました。お試し参加も歓迎！興味のある方はクラブ員または農業事務所へ御相談ください。(鈴木)

きみつ農業女子ネットワーク

君津4市の女性農業者による組織で、若手からベテランまで19名が在籍しています。視察やマルシェ出店、研修会を通じて交流や知識習得を行っています。仲間づくりや家庭と農業の両立等悩みの共有、農業の魅力発信に関心のある方は、ぜひ御参加ください！(後藤)



4Hクラブでの収穫体験会の様子